

「日経トップリーダー」
経営者クラブ

Monthly

2023.9



◎Interview...03

ベトナムビジネスの可能性

I-GLOCALグループ代表 蕪木優典

◎MEMBERS FEATURE...04

水を使わないダイヤモンド工具

札幌市白石区/コバルテック

カーボン製のねじを開発

岐阜県美濃市/タカイコーポレーション

◎MEMBERS MEETING...08

新規事業鼎談「会社の認知度向上、採用にも効果」

◎MEMBER'S SQUARE...10

鉄筋結束作業を2台のロボットで自動化 など

アルミ廃材から湯を沸かす温泉システム

環境ベンチャーのアルハイテック（富山県高岡市）は2023年5月、アルミ廃材から作った水素で加温する「温泉パッケージ」を、北陸ミサワホームが運営するレジャー施設「モンラック・タカオカ」に（新エネ



温泉パッケージの水素貯蔵槽。アルミから生成した水素を貯蔵する

ルギー・産業技術総合開発機構＜NEDO＞事業の一環として）設置し、稼働を確認した。アルミ缶やアルミ廃材などを特殊なアルカリ溶液の入った反応槽に投入すると水素が発生。これを水素ボイラー

で燃焼させるという仕組みで、毎分100リットルの湯を30度から45度に加温できる。

同社の水木伸明社長は、運送会社に勤務していた06年からアルミ付き紙パックのリサイクルに取り組み、13年に起業。NEDOの支援を受け、温水パッケージの基になるシステムを開発、実用化した。

温泉パッケージは、化石燃料を使わないため二酸化炭素（CO₂）が排出されない。一方、一連のプロセスから生じる水酸化アルミニウムは建築用難燃材などに、紙パルプは古紙に、ガスは熱源に、それぞれ利用できる。今後、全国の温泉旅館やホテルなどに展開し、CO₂削減ニーズに対応する。

問い合わせ先：アルハイテック

